

2025/11/1 感想：その2

(40代女性)

岩崎先生からこの夏の終わりに、韓国からの引き揚げ体験の講演会のお知らせをお聞きし、その女性が息子にとっての憧れの存在である篠原なおさんの実のお祖母様とお聞きし非常に驚きました。私の父方の祖父は兵隊として満州にいたと、祖父から子供時代よく聞いていたのですが、詳しい話はしなかったので、戦争の体験を生の声で聴かせて頂くのは私にとって今回が初めてで、特別関心を持って参加させて頂きました。篠原さんのお話は、一言一言、深く静かに私の中に入って、まるで自分も同じ体験をしているように感じる時間でした。これほどの体験をされてなお、他の人々の平和を真に願って行動される姿、生かされていること、繋がってきた命を大切にすることを伝えてくださる姿に頭が下がる想いでした。篠原さんの体験から溢れる平和の願いのバトンをしっかりと引き継いで、これから生きていきたいと強く願いました。貴重な講演会を開催してくださり本当に有難うございました。中学生の息子と参加できたことも一生の宝となりました。これが最後と言わず、これからもこの講演会を続けてくださることを願わざにおれません。

(20代女性)

今回は貴重な場に同席させていただき、本当にありがとうございました(禮子さんのお孫さんである直生さんの、友人からの紹介で急遽参加させていただきました)。講演後も個人的にお話しさせていただき、お疲れだったにも関わらず大変有り難い時間でした。

禮子さんは、今回に至るまで数多くの講演をしてこられたと伺いました。私は今回のお話を伺っただけでも、9歳の少女が経験したことを追体験しているような、今の私達と同じようにただ平和に過ごしていた一つの家族の人生が一変してしまったリアルな恐怖や悲しみを感じました。こんなにも辛く悲しい記憶を何度も思い出し、口に出して他人に語って聞かせることは、禮子さんご自身にとって思い出す度に繰り返す苦しみがあられたのではないかと想像しました。それでも、これまで沢山の人に勇気と希望を持って語ってくださったことに、心の底から感謝と敬意を持っています。

終盤の質疑応答で、"なぜ沢山の命を犠牲にしてまで戦争をするのか分からない"という、素朴で核心をついた論点に立ち返ったのが印象的でした。戦争には、政治、国の情勢や歴史、宗教などの文化、政治家の思惑など色々な要素が複雑に絡み合っているけれど、結局は"人として分からない""理解できない"という倫理的で素朴な疑問に立ち返るんだなあと...。そして理解できない部分が根底にあるからこそ、他の重要な要因である文化や政治、歴史について知ることが必要なのだと改めて実感しました。

日々の生活を一生懸命送りながら、一国民として意思を反映させようと思考し行動することにはとてつもないエネルギーが必要です。私自身、正直なところ社会人になって日常を送りながら、選挙や国外の情勢や文化などに思いを馳せることは中々難しいなど常に感じてきました。

ですが、今回の禮子さんのお話で学んだ戦争の事実や、今回お話を伺ったことで感じた強い感情が、今後の私の行動を変えるエネルギーになったと感じています。禮子さんがお話

しして下さったことは、このように人生を顧みて行動しようとする人を増やすことに繋がってきたのだろうと思います。

これからもどうかお身体にはお気を付けて、できれば気持ち健やかに、これからの世代を見ていていただけたらと思います。

ご経験を聞かせてください、本当にありがとうございました。

(40代男性)

ありがとうございました。

お話を聞き終えました直後は心と頭が整理できておらず、その後の業務のこともあり、落ち着てお伝えすることができませんでした。すみませんでした。

この度、6歳の娘と参加させていただき、(土)の会の直後からやや整理できたかもしれませんので、感想を送らせていただきました。[それでも十分に整理できておらず、箇条書きとなり、申し訳ございません。]

・自分の経験から・・・私の父方の祖父は、戦争史上史上最悪の作戦と言われるインペル作戦に従軍し、生きて帰ってきてくれました。(母方の祖父は満州に従軍していたそうですが、母方の祖父はその頃のことについて、多くは語らなかったそうです。)

父方の祖父は、私が20代の頃に亡くなりましたが、私がまだ地元で同居していましたときは、よくビルマでのことを語って聞かせてくれました。世界地図や地球儀を手元におきながら、後世からは白骨街道とよばれるようになる山中の従軍について、涙ながらに語ってくれていました。ただ、その頃の私は、戦争についての知識も充分ではなく(今でも決して十分ではありませんが)、その、「祖父から実際の戦場の話を聞くこと」の重大性を理解できていました。

よく言われることではありますが、あの時、もっともっと話をねだり、できれば今回の直生君のように、多くの人に、祖父の話を聞いてもらうような場を作れることができると、しみじみ感じてしまいます。

・父として・・・篠原さんの体験談は全てにおいて胸に突き刺さるものばかりでしたが、特に印象に残っているのは、43歳のお父様と、そのころ9歳でいらした禮子先生のことです。前述いたしましたが、今回、6歳の娘と参加させていただき、その娘を膝に乗せながらお話を聞く体験(私は現在、47歳です。)は、どう表現していいかわかりません...。(国語講師ですのに、情けないことです...)

よくある想像かもしれません、今、私と娘が、禮子先生が今、語っておられるその現状に放り込まれたら...。その場で自分は、禮子先生のお父様のように、ふるまうことができるか。自分のお子様たちを生きさせるために、自分は生きられるか。そのようなについて考えざるを得ませんでした。

・いのちというのもについて・・・引き上げのさなかの、壮絶な体験はもちろんですが、終わりくらいに先生が語られた「いのち」についての下り。「私が生きていなかったら、ここにいる直生もいなかったわけで...。」

その当たり前(失礼な書き方をしまして、すみません。)のことを普段どれだけ意識して生きているのか...。祖父の話を聞いているという経験を経ても、頭では理解しているながらも体に落とし込んで生きていない自分の、いのちというものに対する傲慢な生きたかを自覚してしまいました。

・戦争というものについて・・・会の終盤期の、長谷川さんというお客様と

の、「戦争はなぜ起こるのか?」というくだりの、お二人の話の深さと、迫力と、次世代への大きな愛に、どうしようもなくなりました。(本来は、保護者代表として何かを話す、という段取りになつてはいたのですが、すいません、ホンマにどうしようもなくなりました...)

・・・長々と申し訳ございません。まだまだお伝えしたいことはあるのですが、改めて何かでお伝えさせてください。

戦争に関してのことではないかもしれません、やはり、篠原直生という、LEADで教えておりましてもめったにお目にかかるないような類まれな好青年は、やはり篠原禮子さんという素晴らしいおばあさまがいらっしゃるからこそ、生まれて育ってきたのだという実感をも抱かせていただきました。

本当に今回ありがとうございました。「今回が最後」とおしゃっていましたが、私も娘もまだまだ聞きたがっておられます。

どうぞお身体をご自愛なさって、またお話を聞かせくださいませ。

乱文、失礼いたしました。

(20代女性)

貴重なお話を拝聴させていただき、誠にありがとうございました。実際に戦争を体験された方のお話を直接伺うのは、私にとって初めてのことであり、大変深く学ぶことができました。私は広島出身であるため、幼少の頃から平和学習の機会に恵まれておりましたが、今回のお話を伺い、これまでとは異なる新しい視点で戦争の現実を知ることができました。戦争は二度と繰り返してはならないと強く思うと同時に、私たちが今享受している環境に改めて感謝し、日々を大切に生きていきたいと決意を新たにいたしました。